

学校だより

11月号



東深沢

令和7年10月31日

みしまの森学舎

世田谷区立東深沢小学校

校長 奥長 英樹



主体は子どもたち

校長 奥長 英樹

11月、実りの秋を迎えます。先日の学校公開には、多くの皆様にお越しいただき、ありがとうございました。日々子どもたちの学習・生活の様子は変化していますが、子どもたち一人一人、自分の学びを自分なりに求め、追究し、その過程でまた様々なことを学び、成長しています。その姿は、大人からすると、時に心許ない、時にもどかしいものかも知れませんが、子どもたちの今その一瞬は、かけがえのないものだと思います。良いことも悪いことも、人としての自分が成長する糧として、大事にしてもらえたらと思います。学校公開では、そんな子どもたちの取り組みの一端を見ていただいたことと思います。引き続き、子どもたちの学びの毎日を支えていただけたらと思います。

40年前、愛知県のある小学校では、個別最適化を掲げ、個に応じた学びが子どもたち自身で主体となることができるように、学校の学習環境を創造していました。学習をいく通りものプログラム化し、子どもたちが自分の学ぶ筋道で学ぶことができるような授業準備（学習環境づくり）を展開していました。子どもたちは自ら学ぶ見通しをもち、思い思いの場所で学習に取り組んでいました。

長野県のある小学校では、各教科の学習とは別に、白紙単元という今でいうところの総合的な学習の時間にあたるような学びに取り組みました。子どもたち自らが学びのテーマを掲げ、それぞれの学級で、探究的な学びを展開していきました。自分たちが住んでいる地域・環境からテーマを設定したり、興味・関心から設定したりしながら、生き生きと協働的に学びました。

同じ長野県のある小学校では、当時各教科の時間を時間割に設定せずに、全ての学びを総合学習に網羅し、それぞれの学年学級で取り組んでいました。全て子どもたちが自ら学ぶことをベースに創り上げていた学びです。現在でもその取り組みは脈々と続いていて、毎年2回の研究発表を行っています。

これら先人の取り組みは、その時限りではなく継続され、そして同時に、現代の教育課題として、これから子ども達に必要な学校教育につながる取組として、より多くの教育関係者に知られるところとなっています。現行の指導要領に示された資質・能力：コンピテンシーベース（コンテンツベースではない）の学習。探究的な学びであり、自由進度学習であり、個別最適な学び、協働的な学び。そしてそのような小学校に共通してある教育観・学習観が、学習の要件を、子どもの必然に基づくもの、子ども自らが問いをもち、それを解決しようと取り組むもの、学習の主体は子どもたち自身であるという哲学、そのことに徹して学校での学習を展開していこうとすることです。

東深沢小学校でも、今目指すところは、子どもたちが主体となって展開していく学びです。そして授業で展開される学びにとどまらず、学校生活を、子どもたちが自らつくる生活にしていくことです。学校生活の基本的な決まりごと（学校生活スタンダード）を、子どもたち自身で意見を出し合い整えました。東深沢小学校の開校記念日に向けて、新たなキャラクターを募集し、全学年のみんなで考え投票し決めました。決定したキャラクター『フッカ』*右のキャラクターデザインは、これからいろいろなところで活躍するのだと思います。まだまだこれからか楽しみな子どもたちが主体となつての取り組みです。

